留学生と企業との交流について

―― 広島の経済界に期待する ――

西　川　節　行
（広島大学総合科学部・助教授）

1．はじめに
2．「海外留学生・企業交流会」の開催
3．筆者の講演「地域企業の国際活動と留学生について」要旨
4．大阪商工会議所の「留学生採用セミナー」・「留学生と企業の交流サロン」
5．大阪商工会議所の「留学生採用関心企業リスト」
6．わが国の「留学生等の日本企業への就職について」の方針と広島の企業への就職
7．広島の経済界に期待する
8．おわりに

1．はじめに

1）わが国産業界の良き理解者の育成

平成9年9月、中国通商産業局、広島大学および東広島市が主催し、おそらく広島地域のみならず中国地域でも初めてと思われる「海外留学生・企業交流会」が開催された。筆者は企画の段階から関与したが、主催者によるこの交流会の趣旨は概要次のようなものである。

- 留学生について見れば、現在、わが国には全国で約54,000人の留学生がいる。広島県では約800人である。これら留学生は在学中、指導者として見識を高めるなり、高度な技術を習得し、留学後は産業界の要職につくものが多いと思われる。しかし、現状では彼らは、帰国後必ずしもわが国産業界の良き理解者となっているわけではない。
- 他方、企業については、近年、全国的な傾向として、国内企業の海外展開が進展し、生産拠点の海外移転が進んでいる。しかし、企業が海外で現地法人などを設置、運営するには、当該国で、様々な法制度や種々の制約、商習慣や生活等についての情報が必要とされる。
- このことから、今回は最初の試みとして、広島大学に留学中の学生を対象に、中国地域における産業の現状の理解を進めるため、海外進出している、あるいは海外進出を計画している企業との交流会が企画され実施された。

2）期待される効果

主催者によれば期待される効果は次のようになっている。

・留学生サイド　わが国産業に対する見識の高揚
・中国地域サイド　中国地域の国際的な良き理解者、応援団の育成
・企業サイド
　* 海外投資先国、地域の情報の入手
　* 帰国留学生の現地法人等の運営への参画、協力
　* 帰国留学生を介した当該政府や企業とのコネクション
　* 産学共同研究の下地

3）経済大国への留学と企業交流

・社会科学系あるいは自然科学・技術系の留学生は当然として、人文科学系であっても、留学先として日本を選択した背景には「経済大国」の要素が大きいことは否定できない。

しかし、留学生生活を通して、留学生が現実のわが国の産業社会に触れる機会は、アルバイトなどでその一部分を垣間見る場合などを除いて殆どないと言ってよい。その上、周辺に産業立地の乏しい広島大学東広島キャンパスのような環境にあっては、産業界に触れ、理解を深める機会は一層少ないと言わざるを得ない。

・留学生教育プログラムの中で、実地見学が重要な位置づけをされており、その中で工場見学もそれほど多くはないが、確実に組み込まれている。ただ、一般に工場見学の対象とされているところは、見学に向くように特別にアレンジされたものが多いが、これはこれで、わが国産業の表の顔にあたる部分であり、見学の意義は大きい。

さらに本格的なわが国の産業への理解を深めるためには、もっと踏み込んだ企業との交流を進める必要があるが、実際には教育担当者の産業社会に対する理解度の問題や、企業側でも、それだけ余計な手数がかかり、簡単には受け入れて呉れないため実行に難しいところがある。

4）官・学共同主催

今回の留学生・企業交流会は、産業社会と最も関係の深い通産省と大学、地方自治体が共同して開催することにより、はじめて実現し得たものと言える。

5）公的機関の限界と産業界への期待

東京首都圏や関西圏では、留学生と企業の交流にあたっては、むしろ産業界、経済界が積極的に活動している。民間が正面に出ることによって、もっと自由な発想で産業界と留学生の交流が可能になるものと考える。

例えば、今回の交流会に参加した留学生の内、かなりの者が日本における就職に期待を持っていたと思われるが、国家や地方自治体のような公的機関が正面に立つ場合は、留学生派遣国から、頭脳流失と受けとめられかねないこと、また参加者に国が就職の機会を保証するような印象を与えかねないことなどを、慎重に検討する必要がある。

以下、今回の留学生・企業交流会の経験、他地域の経済団体、民間団体等の事例を参考に、広島における産業界、経済界の取り組み方を考えて行きたい。

2.「海外留学生・企業交流会」(Conference for Foreign Students & Regional Enterprises)の開催

1）趣　　旨

広島大学に留学中の学生に（注：広島県の留学生の8割近くが広島大学であることから、広島大学の留学生を対象としたが、他の大学の留学生であっても希望者があれば、弾力的に考える事とした)、中国地域における産業の現状を理解していただくため、海外進出している、あるいは海外進出を計画している企業との交流会を企画し開催する。

2）日時、場所

平成9年9月25日、東広島市市民文化センター・サンスクエア東広島(アザレアホール)

3）主　　催　中国通商産業局、広島大学、東広島市

4）参加企業（7社)

*㈲オーエヌ総合教育センター	(東広島市)
*㈱佐竹製作所	(東広島市)
*リョービ㈱	(府 中 市)
サンゲン㈱	(広 島 市)
シャープ㈱通信システム事業本部	(東広島市)
新谷製作所㈱	(東広島市)
大亜工業㈱	(広 島 市)

(*企業プレゼンテーション実施、他はデスクで懇談)

(他に㈱モルテン（広島市）がパンフレット配布)

5）参　加　者

・申込みベースで62名

・国数　17か国・地域、内中国からの留学生が約半数で最多。

・所属大学　殆どが広島大学の学生であったが、広島修道大学等他学の学生も数名参加していた。

・当日出席者　上記のうち約50名

6）当日の次第

・開催挨拶　中国通商産業局　産業部次長　増川克信氏

東広島市　産業部　商工観光課長　村田静治氏

・講　　演　広島大学総合科学部　助教授　西川節行（筆者）
「地域企業の国際活動と留学生について」（別項で説明）
・懇 談 会　参加７社がそれぞれデスクを持ち、留学生と懇談。
・見　　学　シャープ㈱通信システム事業本部（専用バスを用意）

7）交流会の印象

留学生全員それこそ時間が不足に感じられるほど熱心に各企業と懇談していた。それ以上に参加企業側の真剣な取り組みが印象に残った。閉会後も留学生に対する期待を話す経営者が多かった。

なお、筆者としては、企業側の関心が投資有力国からの学生に限られるかと心配していたが、実際にはその他の国や地域からの学生にも広く関心が寄せられていた。

3．筆者の講演「地域企業の国際活動と留学生について」要旨

1）はじめに

・私も10年間海外勤務。外国では日本の事を聞かれ、日本に帰ると外国の事を聞かれた。留学生諸君も同じだと思う。専門以外でも政治、経済、社会、からスポーツ、音楽、買い物、観光まで、日本の様子をよく見て記録しておくとよい。
・日本は経済大国と呼ばれているが、一般の学生が現実の経済社会に触れる機会は殆どない。本日はまたとない機会なので、何でも聞いてよく勉強しておくこと。
・今回が初めての試みであり、もしうまくいったら毎年続けて、またいろんな地域で開催できるよう主催者にお願いして行きたい。

2）日本の企業の国際活動

・企業の国際活動　輸出、輸入、技術協力などあるが、特に企業の海外進出を中心として説明する。
・企業の海外進出　(1)全国ベースの対外直接投資動向、国際的な投資の動向、代表的な直接投資相手国について、なぜその国に投資したのかその理由、および投資上どんな問題点があるか、同時に対日直接投資の動機と問題点等。(2)広島の企業の海外進出、投資の動向、投資相手国、貿易関係等と、反対に海外からこの広島にどの様な企業が進出して来ているか等。

3）まとめ

・まとめとして、留学生に対して「将来いつか、自分の国の文化や産業をもって、この広島に戻って来て欲しい」と強く呼びかけておいた。

4．大阪商工会議所の「留学生採用セミナー」・「留学生と企業の交流サロン」

1）概　　要

大阪商工会議所では今年（平成９年）も、「留学生採用セミナー」・「留学生と企業との交流サロン」を開催している。

・「留学生採用セミナー」（以下「セミナー」とする）は、「留学生の就職とビザ手続き等についての説明のほか、企業の人事担当者を講師に迎え、採用の経緯とその活用等について具体的に説明する」となっている。

・「留学生と企業の交流サロン」（以下「サロン」とする）は、「関西はじめ全国から集まった優秀な留学生約400人と一度に面談できる絶好の機会」であり、「個別面談コーナーの利用」もできることになっている。また当日参加できない企業には、会社案内パンフレット配布コーナーを設置している。

2）本年度の日時、場所

1997年６月２日（月）、大阪商工会議所ビル。

午前中「セミナー」、午後「サロン」。

3）参　加　費

「セミナー」は無料　、「サロン」は３万円／１社（面談コーナー設営費として）となっている。

4）当日の参加企業

大阪商工会議所に問い合わせたところ、当日ブースを設置した企業は26社（96年は23社）、この他にパンフレットだけの企業が５～６社あったとのことであった。

5）当日参加した留学生

大阪商工会議所によれば、当日は、22か国、約520人の留学生が参加した。昨年は約400人であったので、今年はかなり増えた。なお、520人のうち、約420人が文系、100人が理系の留学生で、就職内定状況については、特に把握していないとのことであった。

5．大阪商工会議所の「留学生採用関心企業リスト」

・大阪商工会議所では、国際部の掲示板に、来所者が自由に見ることが出来るように、「留学生採用関心企業リスト」を掲示している。

・同会議所から特に資料としてもらったリストによると、平成９年７月17日現在で62社が掲載されている。

・掲載の内容としては、会社名、業種、採用職種、採用予定人数、応募資格、勤務地、資本金、従業員数、住所、会社ＴＥＬ，担当部署、担当者が記載されている。

・掲載企業の業種は、メーカー、商社、サービス、情報等広範囲にわたり、また会社の

規模も大企業から小企業まで多岐にわたる。

・本社所在地で見ると、大阪を中心とした関西の企業が42社、東京都が13社、中部が2社、香川、岡山が各1社、そして外国企業が3社となっている。

6．わが国の「留学生等の日本企業への就職について」の方針と広島の企業への就職

・法務省入国管理局による「平成7年中における留学生等の日本企業への就職について」の報告書によれば、留学生の日本での就職について次のように記載している。

「わが国や本国等での学歴を背景として勉学終了後も実務を通じて更に研さんを積むことを自ら希望したり、あるいはわが国の企業の側でも、世界経済のボーダーレス化が進み海外進出の機運が高まる中で専門的な技術・知識を必要とする分野や外国語による意志疎通を日常的に必要とする分野での職務に就かせたいとして、外国とわが国の双方の事情に精通した留学生等を雇用する動向が近年見受けられている。」

「わが国において就労しようとする外国人の受け入れに関して、専門的な技術・知識を必要とする業務あるいは外国の文化に基盤を有する思考・感受性を必要とする業務に従事しようとする者など、国内の雇用面への悪影響その他の問題を生じるおそれが少なく、わが国の経済及び社会の活性化や発展に寄与することが十分に見込まれるものについては、受け入れの範囲や審査基準を明確にする等入国・在留管理の適性を図りながら可能な限り受け入れることを政府の基本方針としている。」

「その意味からも、わが国の大学等を卒業し専門的な技術・知識を修得している優秀な留学生等は、主にわが国の企業が海外に向けて事業展開するための即戦力としてその活躍が期待されている。」

・筆者としては、必ずしも「わが国の企業の海外向け事業展開のための即戦力」であるべき必要がなく、もっと高度な判断で考えるべきであり、かつ「国内の雇用面に悪影響その他の問題が生ずる恐れ」があっても、国際的なわが国への期待を勘案して対処すべきだと考えているが、それはともかく、平成7年中に広島に所在地がある企業に就職した留学生は次の通りである。

平成7年中わが国の企業に就職した留学生数	2,390人
内広島に所在地がある企業に就職した者	22人
全国に対する比率	0.9%

広島の全国に対する人口比率2.3%、工業出荷額2.7%に比べてかなり低い。

7．広島の経済界に期待する

1）広島の留学生交流の現状

広島には公的機関として広島県関係の㈶ひろしま国際センター、広島市関係の㈶広

島市国際交流協会等があり、留学生に対する相談、ガイダンス、奨学資金などの支援業務や親善交流事業を積極的に行っている。

また数多くの奨学資金供与団体があり、活発に活動している。

就職関係については、㈶内外学生センターが相談に応じているが、留学生に関してはアルバイトが主と聞いている。

広島の場合、経済界を代表する商工会議所等で、これまで留学生と企業に関する施策はほとんど行われておらず、従って留学生に対する地元産業、経済の理解促進を目的とするものとしては、今回の中国通商産業局等の主催による交流会が、初めての本格的な取り組みとなっている。

2）広島の経済界に期待する

先述の通り公的機関主導による留学生・企業の交流会は就職問題の扱いなどのように制約が多い。ここは是非とも大阪等で見られるような地元の経済団体の積極的な取り組みを期待したい。

主体となる経済団体としては、商工会議所、経済同友会、青年会議所そして中国経済連合会が考えられる。施策の内容としては次の様なものである。なお福山等大規模な経済集積地域の経済団体などでも検討して欲しい。

(1)留学生の広島での就職と広島の産業、経済の理解を促進させる留学生と企業の交流会。

(2)留学生を含む外国人採用について、企業に対するガイダンス。不用意な態勢のまま、安易に留学生など外国人職員を採用すると、かえって問題を生じ大きな禍根を将来に残す。この例は非常に多い。企業は十分研究し勉強して対応する必要がある。

8．おわりに

・広島経済は現在必ずしも順調ではない。この対策として、国際化を進め、外資系企業を誘致して地元経済の振興と活性化を図ろうとする動きが各方面で広がっている。最近の新聞の見出しで目に付いたものだけを拾ってみても、「広島、去るキリン・あさひ銀、ようこそ韓・米の企業」（平成９年10月17日付朝日新聞）、「広島市、西風新都に外国企業誘致」「県なども米企業誘致」（いずれも平成９年10月14日付日本経済新聞）、また本年10月８日付中国新聞は「外資系企業誘致へ委員会」として中国通産局が中国地域への外資系企業の誘致を促進するために「中国地域外資系企業動向調査委員会（委員長は筆者）」を中国５県と広島市、経済団体等で発足させたことを報じている。

・広島には本年（平成９年）春、韓国総領事館が広島では初めての外国領事館として開設され、広島の本格的な国際化の幕開けとして大いに期待されている。

・国際化を進めて行く上には、単に外資系企業の誘致を進めるだけでは絶対にうまく行かない。その前に、外国人留学生をはじめ既に広島に来て、滞在し、働き、勉強を続けている外国人に、満足できる快適な生活環境を提供出来る社会があって、はじめて国際化が可能となり、外資系企業の進出も実現するものである。

・留学生には、日本の、そして何よりも広島の産業・経済の将来の良き理解者になって欲しい。

そのために出来るだけ理解を促進する機会を提供し、中にわが国での就職を希望するものがあれば、その希望に応えて行くのが受け入れ側の務めであると考えている。

このことにより、わが国の留学生教育が一段と深みと厚みを加えたものとなり、真に国際的に理解され評価されるものになると信じている。

以上